takasaki

第12回

たかさき

薪能

1997年10月4日（土）18:00～

会場

宮崎観音山カッパピア第6駐車場
（雨天の場合は、群馬会館センター）

狂言

仙右ア流（大蔵流）　シテ山本則直　アド大島寛治

仕舞

賀茂　川原恵三（観世流）
班女　武田宗弘（観世流）
天鼓　下平克彦（観世流）

能

八島（宝生流）　シテ本間英孝　ワキ村瀬　純

観覧券発売中

¥4,000（当日券¥4,500）

主催

観音山連絡協議会
お問い合わせ／たかさき薪能事務局
TEL0273－28－6613

プレイガイド

宮崎駅構内観光案内所・宮崎市文化会館・群馬会館センター・カッパピア・富島屋・スズラン・風呂屋
山徳記念館

演目解説

狂言

伯母ヶ酒（おばけ）

酒を商う伯母がけちな人で、いまだ、酒を振る舞ってくれたことがない。そこで甥は、武悪の面をつけて鬼に化け、伯母をおどして酒を飲む。飲むほどに面が邪魔になり、膝頭に掛けて飲むうちに、甥はついに酔いつぶれて寝てしまう。静かになったので、伯母がおそるおそる様子を見にいき、鬼が甥であることを知り、大いに怒って追いこめる。

能

八島

春の夕暮れ、都の僧が西国行脚の折、四国の屋島を訪れる。僧は浦に住む老人に、一夜の宿を乞う。老人は、僧が都人と聞き、たいそう懐かしがる。そして僧の所望により源平屋島の合戦の模様を語り、自分が義経の亡霊であることをほのめかして、消え失せる。

その夜、僧の前に義経の姿の亡霊が現われ、屋島の合戦で、誤って取り落とした弓を苦労して拾いあげた様子を語り、修羅道の苦しみに、激しい戦い振りを見せる。

しかし夜明けとともに、その姿は消え、僧の夢もさめ、浦には朝風が吹いていた。

出演者及びスケジュール［予定］

- 17:00 演目解説（40分）
  有川美亀男（群馬大学名誉教授）
- 17:40 休憩（20分）
- 18:00 挨拶・火入れの儀（30分）
- 18:30 狂言（40分）
  伯母ヶ酒
  山本則直・大島寛治
- 19:10 仕舞（10分）
  賀茂　川原恵三
  巫女　武田安弘
  天鼓　下平克宏
- 19:20 休憩（15分）
- 19:35 能（50分）
  八島
  シテ　本間英孝
  ワキ　村瀬純
- 20:25 終演